

ア ジ ア 日 誌

7 月 17 日 — 9 月 25 日

東 ア ジ ア

中国, 台湾, 南北朝鮮, モンゴル, チベット, 香港

7 月 20 日

- ◆日本とパキスタン, 友好通商条約批准書交換。
- ◆日本政府, ビルマ賠償増額交渉を政治的交渉で解決するようビルマ側に申し入れ。

7 月 21 日

- ◆日本政府, 韓国政府に対しソウルに在韓日本代表部設置を申し入れ。
- ◆米国と国府, 余剰農産物協定締結。

7 月 22 日

- ◆韓国国家再建最高会議, 経済開発 5 カ年計画を発表。
- ◆韓国政府, 12 の大学の総長らの認可取り消しを発表。

7 月 26 日

- ◆日本ニッケル産業代表団, インドネシア基礎工鉱業省とセレバスのニッケル鉱共同開発協定に調印。

7 月 27 日

- ◆ラスク米国務長官, 記者会見で韓国の朴政権を公式に支持。

7 月 28 日

- ◆韓国国家再建最高会議, 新聞統制法案発表。

7 月 29 日

- ◆韓国の革命裁判開始。
- ◆日本とイタリア, 両国の貿易拡大に関する協定に調印。

7 月 31 日

- ◆国府の陳誠副総統, ワシントン訪問, ケネディ大統領と会談。

8 月 1 日

- ◆中国・ネパール国境合同委, 第 3

次会議第 1 回会談開く。

- ◆日本とパキスタンの「所得に対する二重課税回避と脱税防止のための条約を補足する議定書」の批准書交換。

◆岸前首相ら国府を訪問し, 蔣総統と会談。

- ◆八幡製鉄, マラヤの西海岸に 1700 万ドルの日本・マラヤ合弁会社を設立すると発表。

8 月 2 日

- ◆ケネディ・陳誠会談, 中共の国連加盟反対その他の共同コミュニケを発表。

◆チベット自治区準備委, チベットで本年第 3・四半期に民主選挙を試験的に行なうことを決議。

◆駐日韓国代表部, ソウルに日本代表部設置に反対の意向を表明。

8 月 3 日

- ◆日印借款協定交渉, 東京で開始。
- ◆韓国政府, 勤労者活動に関する臨時措置法を公布し, 従来禁止されていた労組の設立を認む。

8 月 7 日

◆北京放送によれば, 中共はセイロンの綿紡績工場建設を援助する協定に調印。

◆外務省の前田東北アジア課長, 軍事政権下の韓国視察のため韓国訪問。

8 月 8 日

◆日本政府, フィリピン, ヴェトナム, カンボジア, ビルマ, インドネシア 5 求償国に対し賠償調査団派遣。

◆日本のセレバス・ニッケル調査団, インドネシア政府との協定書に調印。

8 月 9 日

◆モンゴル第 3 回教育代表大会開く (9~11 日)。

◆小野田セメント, シンガポールで

中間体を最終製品にする計画をこのほど決定。

8 月 11 日

- ◆米国務省, モンゴル承認中止を発表。

8 月 12 日

- ◆韓国国家再建最高会議, 63 年夏に政権を民政に移す方針を発表。

8 月 15 日

◆韓国国家再建最高会議, 解放記念日に当たり 1 万 5000 人の特赦を発表。

◆海外経済協力基金, 北スマトラ石油開発協力会社に対し今年度 4 億円, 来年度 3 億 5000 万ドルの出資を決定。

8 月 16 日

- ◆韓国の張勉元総理, 自己批判の声明を発表。

8 月 18 日

◆中共とガーナ, 友好条約, 経済協力協定, 貿易支払い協定, 文化協定, 共同コミュニケに調印。

◆日本とインド, 8000 万ドルの円借款を供与する借款協定締結。

8 月 19 日

◆自由中国放送によれば, 国府はこのほど台湾への外国投資促進のため南部台湾に自由貿易地域をつくることにつき意見一致。

8 月 21 日

◆中国人民銀行とブラジル銀行, 貿易および支払い協定に調印。

8 月 23 日

◆北鮮最高人民会議常任委, 同国とソ連および中国との友好協力援助条約を批准。

◆韓国とイラン, 相互に大使交換を発表。

8 月 28 日

◆韓国革命裁判所, 報道人 3 名に死

刊を判決。

8月30日

◆IDA, 国府に対し500万ドルの借款2件を供与。

9月1日

◆内外の国府関係・教育・科学・文化界著名人を集めて開かれた陽明山第2次会議終了。

◆中国・ソ連, モンゴル鉄道会議(8月24日～9月1日)終了。3国鉄道代表会議議定書に調印。

9月3日

◆マリ政府経済代表, 北京訪問。

9月4日

◆中国, ネパールに対し1000万ルピーの借款と消費物資2500万ルピーを提供。

9月5日

◆中国とネパール, 経済援助協定の議定書に調印。

9月6日

◆米国, 朝鮮境界付近に部隊を増強。
◆第2世銀, 国府の水道建設のため440万ドル, 南・西部灌漑設備建設のため370万ドル, 港湾修築のため220万ドルの借款を供与。

◆ストルン・タイ蔵相, バンコックの日本大使館に懸案の特別円残額およそ1000万ポンドの全額支払いを要求した覚え書きを手交。

◆エロール英商務担当国務相, 日本の東南アジア向け輸出促進の影響などにつき調査のため東南アジアを歴訪。

9月7日

◆モンゴルとチェコ, 1962年度パートナー協定に調印。

9月12日

◆中共, 金門島を砲撃。

9月15日

◆タイと韓国, 貿易協定に調印。

◆ビルマ政府が協力協定により招いた中国技術者代表団, ラングーンに到着。

9月17日

◆朝鮮労働党第4回大会(11～18日)は, 南北朝鮮の平和的統一を呼びかけた大会宣言を発表。

9月18日

◆中国政府, コンゴとの断交を発表。

◆ウランバートルで開かれていた中国, ソ連, 北朝鮮, 北ヴェトナム, モンゴル5カ国の西太平洋漁業研究委員会第6回総会閉会。

◆モンゴルとハンガリー両国の政府貿易代表団, 1962年度物資交換と支払いに関する議定書に調印。

9月20日

◆中国・ポーランド両国科学技術協力合同常任委員会第8回会議(7～20日), 技術資料提供, 視察団派遣などの議定書に調印。

9月21日

◆国連総会運営委員会, 中国代表権問題を総会の議題として取り上げるよう勧告するニュージーランド提案を可決。

9月22日

◆北京訪問中のキューバ大統領, 中共首脳と会談。

◆中国とマリ, 経済・技術協力協定調印。

◆中共訪問中のモンゴメリー英元帥は周恩来首相, 陳毅外相, 毛沢東主席らと会談。

◆東独とモンゴル, パーター議定書に調印。

9月25日

◆米・国府両軍の大合同演習実施(25日～10月2日)。

東南アジア

フィリピン, タイ, 南北ヴェトナム, ラオス, カンボジア, マラヤ, シンガポール, インドネシア, 北ボルネオ, サラワク

7月17日

◆インドネシアのナスチオン国防相, アラブ連合より西ドイツへ向かう。

7月19日

◆ラオス国際会議, 英ソの議事進行に関する共同提案を承認し, 具体的審議にはいる。

◆米国と南ヴェトナム, 南ヴェトナム

の共産ゲリラに対抗するため同国への軍事経済援助増額につき一致。

7月20日

◆首席代表および最高顧問からなるラオス国際会議の初の制限会議開く。

◆シンガポール立法議会特別会議の信任投票で与党の人民行動党信任させる。

7月21日

◆ラオス国際会議の制限会議, ラオス中立宣言案作成のための前文起草を決定。

7月24日

◆ラオス3派会談再開。

◆南ヴェトナムの国会議員, 州知事らがヴェトナムに殺害され, 政府軍は大規模掃討戦を開始。

7月25日

◆スマトラおよびスラウェシの反乱軍の両首脳, 政府軍に投降。

7月26日

◆世銀, フィリピンの港湾施設改良に850万ドル借款供与。

◆日本ニッケル産業代表団, インドネシア基礎工鉱業省とセラベスのニッケル鉱共同開発協定調印。

7月27日

◆フ首相, ファン・バンドン北ヴェトナム首相と会談。

7月29日

◆インドネシア訪問中のユーゴ経済使節団, 同国に1500万ドルの借款を供与する協定に調印。

◆カンボジアのテック・パン計画相来日。

7月30日

◆ラオス議会, 国王により広い権限を与える憲法改正案を可決。

◆シンガポールの与党, 人民行動党分裂し, 13人が社会主義戦線を結成。

7月31日

◆東南アジア連合(ASA)創設のためのタイ, マラヤ, フィリピン3国外相会議, バンコックで開き, 「ASA結成に関するバンコック宣言」を発表。

8月2日

◆「ラオスの声」によれば、ブーマ政府のケオス首相代理は、憲法改正に反対し、国民会議で採択された全決議は無効であるとの声明を発表。

8月3日

◆ラオスのブーマ殿下、同殿下とブンウム殿下との会談は失敗に終わったと述べた。

8月5日

◆ラオスのブーマ、ブンウム両殿下、連合政府組織の原則につき合意に達したと発表。

8月8日

◆日本のセレベス・ニッケル調査団、インドネシア政府との間に協定書調印。

8月11日

◆ラオスのブンウム派支持の苗族がシエンクアンを砲撃。

◆IMF、インドネシアに対し、今後12カ月間に8250万ドルの引き出しを許可。

◆ポーランド、インドネシアの諸工場建設のため1070万ポンドを融資する協定に調印。

8月12日

◆スマトラ反乱軍のシンボロン元大佐、中央政府への協力を宣誓。

8月13日

◆ラオスのブーマ殿下、総選挙にそなえて「中立党」を結成すると発表。

8月14日

◆カンボジアのシアヌーク元首、議会に辞表提出。

◆南ヴェトナム政府は共産ゲリラによる政府転覆計画を探知したと発表。

8月15日

◆パキスタンとフィリピン、文化協定に調印。

◆カンボジア国民会議はシアヌーク元首の辞表受理を満場一致で拒否、元首は辞表を撤回した。

8月17日

◆スカルノ・インドネシア大統領、投降反乱分子の思想改造委設置を決定。

8月21日

◆東独特使ハーガー博士、インドネシアのスカルノ大統領にベルリン問題に関するメッセージを手渡す。

8月23日

◆インドネシアとハンガリー、友好協力条約に調印。

8月24日

◆ラーマン・マラヤ連邦首相とリー・シンガポール首相は共同声明で、シンガポールをマラヤ連邦に合併する計画検討のための作業班を設けることにつき合意に達したと発表。

8月26日

◆IMF、インドネシア政府に4120万ドルの借款供与。

8月28日

◆スカルノ・インドネシア大統領、3外国石油会社に対し、同日以後政府契約会社として操業することおよび新しい利潤配分決定を通告。

◆インドネシア「革命政府」首相シヤフルジン、政府軍に降伏。

9月2日

◆北ヴェトナムの建国16周年を祝う阅兵式と大衆デモ、ハノイで行なわれる。

◆南ヴェトナム政府軍、カンボジア国境に近い米作地帯やラオス国境付近の山岳地帯でヴェトコンと交戦。

9月4日

◆南ヴェトナムで大量の軍人、公務員の粛清行なわれる。

9月5日

◆インドネシアとハンガリー、ジャカルタで経済特別協力協定、貿易協定と科学・技術協力協定に調印。インドネシアはハンガリーから1000万ポンドの借款を受ける。

◆「シンガポール社会主義戦線」綱領と党章を決定、人民へのアピールを発表。

◆北ヴェトナムとポーランド、科学・技術協力協定書に調印。

9月6日

◆スントルン・タイ蔵相、バンコックの日本大使館に懸案の特別円残額および1000万ポンドの全額支払いを要求した覚え書きを手交。

9月8日

◆米輸出入銀行、タイの近代的戦略道路建設のため3000万ドル、近代的電信網を建設のために1000万ドルの援助と700万ドルの借款を与えることを決めた。

9月9日

◆インドネシアと米国、追加余剰農産物協定を締結。これによりインドネシアは540万ドル相当の小麦粉を受け取る。

9月15日

◆ラオスのブーマ殿下、ラオス3殿下会談をヒンホブで開くよう提案。

◆北ヴェトナムとキューバ、文化科学技術協力についての批准書交換。

◆タイと韓国、貿易協定に調印。

9月16日

◆ラーマン・マラヤ首相とリー・シンガポール首相はクアラルンプールで会談し、63年6月までにシンガポールをマラヤの1州として合邦することに同意したと発表。

9月17日

◆シンガポール社会主義戦線成立大会開く。

9月18日

◆バオダイ元南ヴェトナム首席、ヴェトナム統一を目的として北ヴェトナムで発足した「祖国戦線」運動の議長に就任。

◆南ヴェトナムのサイゴンの北約100キロにあるブオク・タン州の州都ブオク・ビンを1000人を越える共産ゲリラが襲撃。

9月19日

◆インドネシアとパキスタン、1957年締結した貿易協定の1年間延長を決定。

9月20日

◆ナモンのラオス3派会談3週間ぶりに開会。

南アジア

インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、ネパール、ブータン

7月20日

◆日本とパキスタン、友好通商条約

批准書交換。

◆日本政府、ビルマ賠償増額交渉を政治的交渉で解決するようビルマ側に申し入れ。

◆セイロン石油公社、シェル石油施設の一部を接收。

7月22日

◆セイロン政府、クミール語地方の夜間外出禁止令を解除。

7月31日

◆ネパール国立銀行、対日為替レートを買い4680円、売り4770円にすると発表。

8月1日

◆日本とパキスタンの「所得に対する二重課税回避と脱税防止のための条約を補足する議定書」の批准書交換。

◆中国・ネパール国境合同委、第3次会議第1回会談開く。

8月3日

◆日印借款協定交渉、東京で開始。

◆パキスタン政府、アルジェリア臨時政府を承認。

8月7日

◆インド第3次5カ年計画発表。

◆北京放送によれば、中共はセイロンの綿紡績工場建設を援助する協定に調印。

8月9日

◆世銀、インドの民間石炭産業援助のため3500万ドルの借款供与。

8月10日

◆パキスタンと西独、2万5000トンの砂糖供給に関する協定に調印。

8月12日

◆パキスタン政府、一部綿花の輸出税廃止を発表。

8月14日

◆インド下院、旧ホルトガル領ダドラとナガラバリをインド領に編入する憲法修正案を可決。ホルトガルはこれに抗議。

8月15日

◆パキスタンとフィリピン、文化協定に調印。

8月16日

◆DLF、インドの水力・火力発電計

画に6290万ドルの借款供与。

◆東独政府の特使ハーガー博士は、ベルリン危機に関する同政府の見解をインド政府に伝えるためニューデリー着。

8月17日

◆世銀、カルカッタの港湾施設に2100万ドルの借款供与。

8月19日

◆チェコ政府、インド第3次5カ年計画の重工業開発援助のため4億ルピーを供与すると発表。

8月22日

◆インドのネール首相、議会演説で、ベルリン問題に関する東西会議開催を呼びかけ。

8月23日

◆パキスタン当局、同国の在アフガニスタン領事館を閉鎖。

◆ビルマ農業視察一行北京着。

8月24日

◆ソ連政府、パキスタンにCENTO原子兵器基地問題で新覚え書きを渡す。

8月26日

◆ビルマ上下両院、仏教を国教とする憲法改正案を可決。

8月29日

◆インドのマラビヤ国務省は、ENI（イタリア国営石油会社）とインド第3次5カ年計画の石油計画のため1億ドルの借款を供与する協定を締結したと発表。

8月31日

◆ソ連とインド、文化協定に調印。

9月3日

◆ビルマ農業視察団一行北京着。

9月4日

◆中国、ネパールに対し1000万ルピーの借款と消費物資2500万ルピーを提供。

9月5日

◆中国とネパール、経済援助協定議定書に調印。

9月6日

◆アフガニスタンとパキスタン、外交関係断絶。

◆IDAは、インドのウッタルプラデシュ州の農業用水拡張計画援助のため600万ドルの借款を与える。

9月14日

◆セイロン政府が4月行なった6カ月の非常事態宣言、さらに1カ月間延長さる。

◆西ドイツはインドの第3次5カ年計画援助のため1億7000万マルクの長期借款供与。

9月15日

◆ビルマ政府が協力協定により招いた中国技術者代表团、ラングーン到着。

9月19日

◆インドネシアとパキスタン、1957年締結した貿易協定を1年間延長を決定。

◆インドのマドラス州各地で土地改革法案に反対して何十万もの農民がデモ。

9月20日

◆インド政府当局、第3次5カ年計画中に公共部門で設立される予定の7大重工業工場の所在地を公表。

9月22日

◆パキスタンは新しい海軍借款法により、米国から2隻の駆逐艦を受け取る。

西南アジア

アフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、アラブ連合、バーレン、クエート、カタール

7月17日

◆カセム・イラク首相はイラク南部のバスラ地方からクエートへ通じる運河の計画案を作成。

7月18日

◆カセム・イラク首相、クエートの領有を重ねて主張。

7月20日

◆アラブ連盟理事会、クエート加盟を全員一致で承認。

◆アラブ連合、同国内の銀行、保険会社を国有化。

◆ヨルダンのフセイン国王、回教国首脳会談を提唱。

7月21日

◆イランのテヘランに非常事態が宣言され、国民戦線指導者ら逮捕さる。
◆イラク政府、「クエートのアラブ連盟に加盟させるとのアラブ連盟の決議は規約違反である」と声明を発表。

7月24日

◆米輸出入銀行、イランに700万ドルの借款供与。

7月25日

◆アラブ連合のナセル大統領、エジプト地区土地改革法改正令を公布。

7月27日

◆米輸出入銀行、イランに2件、計700万ドルの借款供与。
◆イラクとチェコ、バスラ精油所建設調査契約に調印。

7月28日

◆アラブ連合、米余剰農産物売却費のうち3444万ドルを借り入れる契約を締結。

7月29日

◆アラブ連合、チェンニジアに対する軍事資料提供を決定。
◆アラブ連合原子力委、原子力運転に成功したと発表。

7月30日

◆アラブ連合政府、チェンニジアの要請により同国への派兵を発表。

8月1日

◆アラブ連合のナセル大統領、ビゼルト紛争犠牲者救済のため20万エジプト・ポンドを贈ることを決定。

8月3日

◆アラブ連合とチェンニジア、外交関係を再開。

8月4日

◆アラブ連合紙によれば、英アデン保護領のハドラマウトで民族主義者による反乱が起こったといわれる。

8月5日

◆アラブ連合とクエート、大使級外交使節交換を決定。

8月12日

◆クエートとアラブ連盟、クエート

進駐英軍とアラブ連盟軍を交代させる協定に調印。

8月16日

◆イスラエル総選挙実施。
◆アラブ連合政府、根本的な政府構造の改造を発表。
◆西独、イランに2億マルクの借款供与を発表。

8月17日

◆英政府、アブダラー首長のクエート撤兵要求を承諾。

8月18日

◆日本とインド、8000万ドルの円借款を供与する借款協定締結。

8月22日

◆WHO(世界保健機関)とアラブ連盟、保健事業における協力協定に調印。

8月23日

◆韓国とイラン、相互に大使交換を発表。

8月24日

◆イラク政府とイラク石油会社(IPC)の石油利権交渉再開。

8月25日

◆イラク政府、共産系紙に発行停止。

8月27日

◆アラブ連合政府はこのほど、旅行者の同国通貨持ち出し禁止令を公布。
◆イスラエル・マダガスカル、友好援助協定調印。

9月1日

◆イラク軍司令官を代表とする軍事使節団ソ連訪問。

9月2日

◆アメリカ、アラブ連合に6500万ドルの小麦、とうもろこしを売却する協定に調印。

9月3日

◆西独とイスラエル、二重課税防止協定に調印。

9月6日

◆アフガニスタンとパキスタン、外交関係断絶。
◆アラブ連合、チェンニジア間に新航空路開設さる。

◆米政府、平和のための食糧協定に基づきトルコに対し3550万ドル相当の米国小麦売却に同意。

9月9日

◆トルコ軍と警察の協力での国内の過激分子の手入れを行ない15人を逮捕。

9月12日

◆ブルガリア政府、帝国主義者の挑発に対抗するためギリシャ、トルコ国境方面の軍隊に待機命令を出す。

9月15日

◆トルコのメンデレス前首相、バヤール前大統領15人、トルコ憲法違反のかどで死刑を宣告さる。

9月16日

◆北部イラクの都市支配権をめくり親共バクル派反乱軍と政府軍は市街戦を続けている。

9月17日

◆イラク政府軍、同国北部のクルト族の反乱を鎮圧。

9月19日

◆アラブ連盟定例理事会(14~19日)終了、アルジェリアとマスカット・オームマンの独立闘争とベオグラード会議の決議支持を決定。

9月22日

◆クエート、サウジアラビア外交関係樹立。

9月23日

◆ヨルダンの港湾施設改善、拡張資金として西独が135万ポンドの借款を与える協定に調印。

アフリカ

7月17日

◆チュニジア大統領、国民総会で仏軍基地(ビゼルト)封鎖を発表。
◆訪米中のニエレレ・タンガニーカ首相、ケネディ大統領と会談。
◆スーダンのイブラヒム・アブド大統領モスクワ訪問。

7月19日

◆チュニジア軍と市民はフランスのビゼルト基地を包囲。仏軍は降下部隊を派遣。

7月20日

- ◆セネガルのダカールで開催中のモノロビア派19カ国金融経済委、アフリカの経済調査の幅広い協力措置をとることにつき一致。
- ◆チュニジア、フランスとの外交関係断絶を発表。

7月21日

- ◆仏軍、ビゼルト基地を占領。
- ◆チュニジア問題を討議する緊急安保理開会。

7月22日

- ◆フランス、チュニジア両軍、ビゼルトに全作戦を停止するよう命令。
- ◆仏・チュニジア紛争討議の国連安保理、即時休戦と全武装兵力の源位置復帰を求めたりベリア単独決議案採択。
- ◆アフリカのカサブランカ派の6カ国、コメクリ会議後共同市場結成のコミュニケを発表。

7月23日

- ◆ビゼルト市長と仏軍司令官、停戦の合意成立。
- ◆アフリカのモノロビア会議諸国20カ国専門家代表は、各国の多くの面における協力体制に関する最終案を承認。

7月24日

- ◆仏・チュニジア紛争討議のためアラブ連盟緊急総会開く。

7月26日

- ◆南ローデシアの新憲法に対する国民投票で政府側勝つ。

7月27日

- ◆ソ連、アフリカ諸国教育援助に23万5000ルーブルを提供。

7月28日

- ◆リュグラン会談中止。
- ◆チュニジア、アラブ連合に復交を申し入れ。
- ◆英植民地省、ガンビアに62年5月自治を与えると発表。

7月29日

- ◆ユーゴ政府、チュニジアに対しビゼルト紛争の負傷者援助のため4000万ジナールを供与を決定。

7月30日

- ◆ソ連、スーダンの開発計画に対し2000万ルーブルの借款供与を発表。

7月31日

- ◆西アフリカ婦人会議、西アフリカ婦人組織設立を決定して閉会（23～31日）。

8月2日

- ◆コンゴ議会、シシル・アドゥラ新首相を承認。

8月3日

- ◆アラブ連合とチュニジア、外交関係再開。
- ◆スーダンのモハメッド・D・フェドル国鉄支配人一行来日、日本の国鉄当局とスーダンの鉄道建設について意見を交換。

8月4日

- ◆マリ政府の要請により、同国内の仏軍撤退完了。
- ◆ソ連、チュニジアに2500万ルーブルの借款供与。

8月6日

- ◆世界銀行、米英と共同で、ガーナ水力発電計画に3500万ポンドの借款を供与。

8月7日

- ◆国連のA A諸国、チュニジア問題討議のための特別総会開催を要求。

8月9日

- ◆ポルトガル国防省、アンゴラ反乱の本部が陥落したと発表。

8月12日

- ◆ガーナはルーマニアおよびブルガリアと外交関係樹立を決定。

8月14日

- ◆ケニアの民族主義指導者ジョモ・ケニヤッタ釈放となる。
- ◆西独当局、亡命中のチュニジア民族指導者サラ・ベ・ンユーセフ暗殺されたと発表。

8月15日

- ◆ハマースホルド国連事務総長は、コンゴ共和国のアドゥラ首相の要請にこたえ、同内閣を承認する旨公表した。

8月16日

- ◆世銀、トリニダッドおよびトバゴの電力開発のため2350万ドルの借款

供与。

8月18日

- ◆中共とガーナ、友好条約、経済協力協定、貿易支払い協定、文化協定、共同コミュニケに調印。

- 8月20日 モーリタニア初代大統領にモクタール・ウルド・ダグダ首相選ばれる。

8月21日

- ◆チュニジア問題討議の国連特別総会開く。

8月24日

- ◆ケニアのケニア・アフリカ民族同盟(KANU)とケニア・アフリカ民族同盟(KADU)は、ジョモ・ケニヤッタを首班とする両党連立内閣組織を決定。

8月25日

- ◆チュニジア問題討議の国連特別総会、A A決議案を採択。
- ◆旧仏赤道アフリカ4国(コンゴ、ガボン、チャド、中央アフリカ)首脳会議開く。

8月27日

- ◆アルジェリア臨時政府新首相にベン・ケッタ就任。
- ◆イスラエル・マダガスカル、友好援助協力調印。

8月28日

- ◆カサブランカ派首脳会議開く。

9月1日

- ◆ソ連とガーナ政府代表、ソ連からガーナヘトラクターと各種農業機械合計100万ポンドを売却する協定に調印。

- ◆ブルガリア・モロッコ外交関係樹立を決定。

- ◆マスカット・オマーンのイマム氏はオマーン・イマム国家諮問会議の樹立を命令。

9月5日

- ◆カンボジア、ユーゴ、ガーナ3国はアルジェリア共和国臨時政府を法的に承認すると発表。

9月7日

- ◆チェコのシロキ首相、コンゴ中央政府承認。
- ◆ビゼルト戦中の仏軍の虐殺行為の調査を求めたチュニジア政府の要望

により、国連調査団がチュニスに到着。

9月8日

◆ブルギバ大統領、大戦の危機が存在する間ビゼルト基地を維持するよう提案。

◆EECの欧州開発基金はチャド共和国に道路整備資金として64万8000ドルを融資。

9月9日

◆ガーナ政府、賃金カット政策に反対してスト実施中の西部海岸のタコラジ、セコンジ両港に非常事態宣言を発動。

◆ブラザビル諸国12カ国、タナナリブで共同防衛協定に調印。

◆米国、ナイジェリア鉄道の施設改善計画に310万ドルの借款を与える協定に調印。

9月10日

◆インドネシア空軍、西イリアン解放のため必要な準備を行なうよう各基地司令官に命令。

9月11日

◆フランス語系のアフリカ11カ国とマダガスカル12カ国、タナナリブで「アフリカ・マダガスカル同盟」設置憲章に調印。

9月13日

◆国連軍カタンガを制圧、ツォンベ大統領は逃亡。

◆カメルーン人民同盟指導委員会政治局、民族解放軍がカメルーン西南部ババンビ地区のエントンを占領したことを発表。

◆ソ連・ソマリア経済技術協力協定に基づき17人のソ連専門家代表団モガジシオに到着。

9月16日

◆エンクルマ・ガーナ大統領、ソ連、中国、東欧諸国の訪問を終えてアクラに帰着。

9月17日

◆スーダン政府、東京と北京に大使館設置を決定。

9月18日

◆中国、コンゴとの断交を発表。

9月19日

◆ツォンベ・カタンガ州大統領、北

ローデシアのエンドラでヒアリ国連代表と停戦会談開く。

◆ウィーンの世銀およびIDA総会、リベリア、シエラレオネ、トーゴ3国の加盟を承認。

9月20日

◆チェコ訪問中のナイジェリア政府代表団、ブラハでチェコ政府と長期貿易協定に調印。

9月21日

◆エリザベトビルの国連軍とカタンガ軍停戦。

9月22日

◆中国とマリ、経済・技術協力協定調印。

9月24日

◆ナイジェリア政府代表団、ワルシャワでポーランド政府と3年間の貿易協定に調印。

◆ソ連、ガーナのボルタ川のブイ水力発電所建設の設計と調査を援助する契約を締結。

◆トーゴの首都ロメでトーゴ統一を要求するデモに1万5000人が参加。

そ の 他

7月20日

◆米上院外交委員会、低開発国援助に本年度43億2650万ドルの支出を承認。

8月5日

◆米州経済会議、フンタ・デル・エステで開く。

8月11日

◆アルゼンチンで軍事革命が起こったが12日朝鎮圧された。

8月25日

◆ブラジルのクアドロス大統領辞任。

◆アルゼンチンで極右退役将校による反政府陰謀摘発さる。

8月26日

◆チリ政府、左翼の反政府陰謀が発覚し、これを粉砕したと発表。

8月28日

◆ブラジルで非常事態宣言出さる。

8月31日

◆ブラジル議会、グラール副大統領を大統領に昇格させる案を可決。

9月1日

◆中立国首脳会議ベオグラードで開く。

9月4日

◆グラール・ブラジル副大統領、大統領に就任。

9月6日

◆ネール首相とエンクルマ大統領、フ首相に米ソ両首脳に早急会談と不断の接触を求めた中立国首脳会議の要望書を手渡した。

9月8日

◆国連のA・Aグループ、核実験再開後の情勢検討のため会合。

9月9日

◆キューバ革命裁判は4月の反カストロ上陸軍捕虜のうち5人を死刑。

9月10日

◆スカルノ大統領とケイタ・マリ大統領、中立国首脳会議のアビールをたざぎえて訪米。

9月11日

◆ジロン米財務長官、中南米の「進歩のための同盟計画」に少なくとも125億ドルを10年間供与すると発表。

9月12日

◆ドミニカの首都トルヒーヨで数千人が反政府デモに参加し、4人が射殺さる。

◆国連砂糖会議開く(9月12日～10月13日)。

9月18日

◆ハ事務総長死去に伴い、安保理の緊急秘密会議招集さる。

◆IMF総会(18～22日)開く。

◆「法による世界平和」アジア会議東京で開く(18～20日)。

9月19日

◆国連総会開く。

9月25日

◆中米6カ国(グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、エルサルバドル、パナマ)の軍首脳は合同会議を開き(22～25日)、共産主義勢力の浸透阻止のための中米統一情報機関設置を勧告。